

王道の就活 覇道の就活

社会人の若者教育を中心に立ち上げたキャリアコンサルティングですが、ここ十数年は就職活動に重点を置きながら、多くの若者や世間の情報と接してきました。その結果、多くの学生の就職活動が誠実な王道ではなく、権謀術数に長けた覇道であることに気がきました。今回は就活の王道と覇道について話をします。

儒

教の言葉「仁義礼智信」が王道を表しています。特に、人を思いやる「仁」と、正しいおこないをする「義」を意識することで、人としてあるべき姿が自然と体に染みつき、誠実で約束を守る「信」が備わった人物になれるでしょう。逆に仕事でも同じことが言えますが、就活を進めていく上で、当たり前のように人に迷惑をかけることばかりしていると、結局、人相も悪くなり運氣も落ちます。付き合う人間もそういう人間ばかりになっていき、リーダーとしても大成は難しいでしょう。

就活において、自分が働きたい会社就職するために内定を数社もらっても良いと思いますが、内定承諾をするということは意思決定を相手に示したことになります。内定承諾をしたのに、裏ではこっそり就活を続ける学生がいます。これを私は覇道の就活と呼んでいます。これが慢性化して当たり前になると、どれだけ企業に迷惑をかけているのかわからなくなります。採用活動終了後に急に欠員が出たら、企業は採用の仕事を再開しなければならないのです。

残念なことに、内定承諾をした学生に対して「まだ就活していいよ」と伝える企業が出てきたそうです。最近、顕著になっているのは、教授による覇道の就活への誘導です。学生が決めた内定承諾を辞退するよう促し「ここに就職しなさい、そうしなければ単位をあげない」と露骨に教授のツテの就職先を勧める方がいるのです。学生のことも自分の何かを守ろうとしているのでしょうか。教育者としては失格です。最後に親です。子どもの人間教育に大きな影響を与えるのは親です。ところが「有名な企業に入りなさい。上場企業にしなさい」と、子どもが他社で内定承諾をしたにも関わらず、裏で親が覇道の就活へ導いてしまっているのです。大人たちは学生たちをどんな大人にしたいのでしょうか？

こ

のような状態で社会に出たら、自分が良い条件になるためだったら他の人はどうでもいい、裏切ってもいいのだと、当たり前前に仁義に反した行動を選んでしまう若者を生み出すことになります。バレな

ければ良いと思っていても、体に染み付いてしまい、そういう癖がついてしまいます。それは言葉の端々にも、顔つきにも出るの、最も仕事で組みたいであろうレベルの高い人たちには人間性がバレてしまい、うまくいかなくなるのです。これが覇道の就活の恐ろしいところです。

どこかで誰かが気づかせてあげなければなりません、人の意見を聞くとと言っても、誰の意見を聞くかによって人生が変わります。ネット上にも、聞き心地が良くコスパやタイパの良い覇道の就活を勧める無責任な人が多数います。王道は多数決ではないのです。

覇道を積み重ねても、いいことなど一つもありません。それよりも少し損かもしれないけれど、人様には迷惑をかけない、思いやりがある、約束を守る、正義とは何かという王道をきちっとやってきた人は、周りから信頼され、報われると考えます。学生の皆さんは、思いやりの心を持ちながら、誠実に、王道の就活をして働きたい企業を見つけ、王道の人生を歩んでいきましょう。



(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲
MURODATE Isao

2003年に株式会社キャリアコンサルティングを設立。全国で若者の育成に取り組む。プータン王国王立マネジメント大学など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパンの講師・審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「応援される人」になりなさい(ワック)がある。